

## ‘ボディビル・フィットネス界’ 発展への願い

競技の未来は選手の抱く夢の大きさを量る事ができると思います。そして、夢への道筋を示す組織の在り方が、その先の業界全体の発展を決める事になるのではないのでしょうか。

競技を目指す選手たちは向上を求めて日々精進しています。地方大会、ブロック大会、全国大会へと活躍するステージを上げていき、さらにその先に海外大会への挑戦があります。しかし、海外大会への出場権を得るためのハードルは高く、実際に海外大会を経験する事ができる選手はほんの一部の選手というのが実情です。

そうした中、少しでも多くの選手が海外大会を経験する事ができるようにと企画させて頂いたのが、日本グアム親善大会であり、自費出場選手枠の提案でした。

2012年に男子ボディビルでの競技交流からスタートした日本グアム親善大会ですが、翌年の第二回大会では女子競技カテゴリーである女子ボディビルとボディフィットネスを新設し、さらに第三回大会では、男子フィジークとフィットネスビキニを追加する事となり、IFBB(世界ボディビル・フィットネス連盟)の競技改正に伴い、女子ボディビルを女子フィジークに名称とルール変更し、男子ボディビル、男子フィジーク、女子フィジーク、ボディフィットネス、フィットネスビキニの5つの競技カテゴリーでの競技交流へと発展を遂げました。

日本グアム親善大会を通じて、少しでも多くの選手のみなさんに海外大会を体験して頂き、その経験を糧として自身の成長、さらにはボディビル・フィットネス界全体のレベル向上と発展につなげてもらいたいと考えております。

日本グアム親善大会開催にあたりましては、主催されるGNPF(グアムナショナルフィットネス連盟)のマリアン・モリソン会長をはじめとしたグアムの関係各位、GNPF日本事務局長としてグアムと日本との橋渡しをしてくださったレオパレス21の笠松博次氏、大会後援を頂いたグアム政府観光局、そして、競技への協賛によって国際親善イベントを実現へと導いてくださったJBBF(日本ボディビル・フィットネス連盟)の玉利斉会長をはじめとする関係各位の皆様に、あらためて厚く御礼申し上げます。

株式会社 BELLZ

代表取締役 吉田 真人